



新社会党東京都本部委員長

江原ひであきアピール 2006.8

江原ひであき事務所

中野区南台 2-32-1 電話 (03) 3381-7656 FAX (03) 3383-8535

ホームページ <http://www7.ebara.or.jp/ebara-hideaki/>

Eメール hide-eba@cameo.plala.or.jp

小泉首相 8・15靖国参拝 戦後最大の犯罪人

偏狭なナショナリズムを煽った。 識者が警鐘を !
国の在り方を変えた。 日米一体の軍事大国へ !
憲法を踏みにじり日本社会を破壊 法秩序を無視し日本を壊す !
言論封殺、暴力跋扈社会に 理念、倫理なき弱肉強食社会に !

戦後最大の犯罪人小泉の靖国参拝。

8月15日、ついに小泉首相が靖国神社を参拝した。早朝からマスコミが大変な騒ぎだ。主要なテレビ局はすべて特番を組んでいる。これほどの報道はめったに無い。画面での小泉は緊張の面持ちだったが内心では「してやったり、とほくそ笑んでいたのだろう」。すべて(120%)が計算しつくされた演出だ! パフォ・マンズの小泉が最後の最後までテレビを利用して劇場政治を演じた!

しかし、小泉首相の5年半はテレビ利用の劇場政治だった、と総括するわけにはいかない。何故なら小泉は戦後最大の犯罪人だからである。

理由その1、偏狭なナショナリズムを煽る

小泉首相の犯罪は数多いが将来の世界の中における日本の生き方を考えるとき、「ナショナリズム」を煽ったのが一番の大罪だ!

小泉の政治手法は常に敵を仕立て、その見える敵に敢然と立ち向かう自分を、テレビを通じて悪を成敗する正義の味方として演じてきた。国民には悪を徹底的に打ちのめす不屈の闘士として登場し拍手喝采を浴びてきた。外交にも同様な手法を用いてきた。

もともと靖国参拝は自民党総裁選挙において遺族会の票を当てにした公約だったが、中国や韓国から反対されると「過去の戦争を反省し、二度と戦争を起こさないことを誓うとともに戦争の犠牲者に、敬意と感謝の念を持って参拝している。」「それがなぜ悪い、どこの国でもそうしているではないか。文句を言う中国や韓国がおかしい」と。しかし、遊就館を見よ! あそこに“過去の戦争を反省し、二度と戦争は起こしません”なんて感じられるか! 靖国神社は先の大戦な

どまったく反省していない！ 事実逆だ！ 戦争賛美の社ではないか！

なのに、国内の反対者には「中国や韓国が反対だと言うから靖国に参拝するな」とか、「私は二度と戦争は起こしません、と参拝しているのだ」と、繰り返して言い続けてきた。この言い方が単純だが国民のナショナリズム煽ってきたのだ。

小泉の論理には明治以降に靖国神社が創られた経緯やその後の軍国日本形成に果たした役割などについては何も無い。そのことを小泉は知り尽くして、あえて言い続けてきたのは明らかである。その結果、多くを知らない国民は、敵をやっつける小泉が勇敢で格好よく映り、支持が高いのだろう。

しかし、日本の現状は偏狭なナショナリズムだけが高揚し、アジアで完全に孤立し世界から理解されない国になっている。そのことが小泉の大罪なのだ。

私たちが靖国参拝を反対するのは、“外国が反対するから”ではない。明治以降、靖国が天皇の神社として侵略戦争遂行のために果たした役割などを考えるとき、本来あってはならないと認識するからである。

理由その 2、国の在り方を変えた。 日米一体の軍事大国へ！

日米の軍事同盟の実態は日米安保の質を変え、文字通りアメリカ軍の一部に変容した。その基地の在りようもアメリカの対アジア・中東戦略の前線基地にしてしまった。非戦非武装の 9 条を有する現憲法下でありえないことを国会審議もないままに合意してしまった。憲法改悪の先取りだ。

理由その 3、憲法を踏みにじり日本社会を破壊

小泉は憲法破りの常習犯。イラク得措法など典型的だ、国会を数で強行突破して戦闘状態のイラクに自衛隊を派兵する。あるいは、参議院で否決された「郵政民営化法案」にもかかわらず衆議院を強引に解散し、ヒットラ - ばりの独裁政治を敢行。そして今回の靖国神社参拝だ！ 総理大臣の靖国参拝についてはこれまでに「憲法違反」との司法の判断が示されている。しかし、小泉は「心の問題」だ、として司法の判断など無視し続けている。このように司法や立法がどのように判断しようとおかまいなし！これは三権分立の否定であり、日本国憲法の根幹を破壊する小泉独裁と言わざるをえない。

その結果、人間社会としての法や秩序が崩壊するとともに、理念・哲学、倫理観を喪失し日本社会のあらゆる構造が崩壊してしまった。多くの識者がいうように“人間社会として日本の底が抜けてしまった”のだ。

理由その 4、言論封殺、暴力跋扈社会に

さらに、小泉政治の大罪は、規制緩和と構造改革を強行し続けたことである。そこに貫徹されているのは“強い者が勝つ”・「弱肉強食の論理」。そこには理性や論理は要らない、二者択一の短絡思考が持て囃され、軽薄で粗暴、暴力跋扈の無秩序社会にしてしまった。他人を騙しても自分だけ儲かればいい、腹がたったら相手を殺す。親が子を、子が親を・・・殺伐としたこの荒んだ社会！

その結果、人権が踏みにじられ貧富の差が急激に拡大、多くの国民の生活が破綻した。また、地域の商店街やコミュニティ - が崩壊するとともに、若者には正規職が激減しフリ - タ - やニ - トが急増している。このことは明日の日本に内面から危機をもたらす。

2006年8月19日
新社会党：江原ひであき